

普及情報

バイオ・セル・ショット工法による緑化が全国に広がる!!

はじめに

本県が民間企業とで開発した「バイオ・セル・ショット工法」が今、全国で施工されている。本工法は手植えに頼っていた栄養繁殖性植物の植付けを機械吹き付けにより可能にしたもので、工期の大幅な短縮とトータルコストを低減し、景観形成や除草作業の軽減効果が認知されてきた。

施工状況

1999年からの施工実績は、全国100箇所以上、約140,000㎡であり(図1)、国土交通省を始めとして全国25都府県内での施工実績がある(図2)。

特徴的な施工現場として、2005年2月に開港した中部国際空港関連緑化工事がある。航空機を利用する人だけでなく、空港内施設を利用する人々も見学できる展望棟最先端部に一番近い場所、エプロン11,690㎡を約10日間で施工した(図3)。初夏にはマツバギク等がピンク色に咲き誇り、お花畑の空港として注目されるだろう。

県内では、J R山陽本線や新幹線、国道2号線

の加古川河川敷(図4)、小野市、篠山市などがあり、開花による景観形成や除草作業の軽減が見込める。

緑化に使用するセル成型苗は全て但馬、丹波の生産者5団体25名が栽培し供給している。ポット苗の緑化需要の低迷が続く中、新しい形態の苗生産に期待もあり、今後の進展に大いに注目している。

本工法は、2003年には国土交通省「第5回国土技術開発賞」を受賞、2005年には同省テーマ設定技術に応募された152課題の内8課題の一つに選ばれ、さらに広範囲に採用される見込みである。

これからの展望

今後は道路法面、公園緑化のみならず、大規模な屋上緑化の工法として、また畦畔・法面、河川堤防、放牧地、緑地帯などには日本シバ裁断茎を用いることでも様々な緑化需要への対応を検討している。

福嶋 昭(北部農技・農業部)

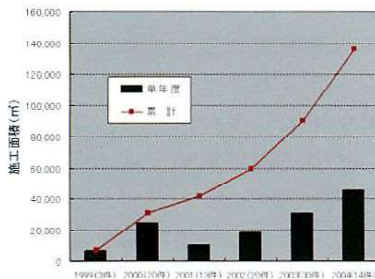


図1 年度別施工面積の推移



図2 発注者別施工件数の割合



図3 中部国際空港内約1ha(2004年11月)



図4 加古川左岸河川敷沿い(国道2号線南側)

ひょうごの農林水産技術 No.139

平成17年5月1日(隔月刊)

兵庫県立農林水産技術総合センター(0790)47-2400

1部250円(申込先・県立農林水産技術総合センター)